
◎一般質問

○議長（藤井 要君） 日程第1、昨日に引き続き一般質問を行います。

質問の通告がありますので、発言を許します。

◇ 深 澤 守 君

○議長（藤井 要君） 通告順位6番、深澤 守君。

（5番 深澤 守君 登壇）

○5番（深澤 守君） 皆さん、おはようございます。本日はたくさんの傍聴人の方、おいでいただきまして誠にありがとうございます。元来ですね、緊張する性分ですので、このような多数の傍聴人、いらっしゃる中で、一般質問やることになりますので、緊張しております。言葉に詰まることや、話し言葉はわからないこともあるかと思いますが、その辺はご理解いただいて、傍聴していただきたいと思います。

それでは、通告に従いまして壇上より一般質問させていただきます。

2020年はコロナの世界的パンデミックによりコロナ流行前の生活様式ができなくなり、世界的な時代の変革期に入りました。岩科診療所は、コロナの世界的流行の前に計画されたものですので、2次救急を含めた松崎、西伊豆地区の医療体制をもう一度検証する必要があると思いますので、岩科診療所等を中心に一般質問させていただきます。

1、町長の政治姿勢について、①、9月定例会の一般質問の回答で、町長は情報収集の外出において、町民の声が聞けたので、今後の行政運営に活かしていきたいと答弁しているが、どのように活かされたのか、お答え下さい。

②、令和元年度は名刺300枚を3回印刷したのに対して、今年度は7月と10月に500枚ずつ計千枚の大量の名刺を公費で印刷しているが、大量の名刺の使用目的をお答えください。

2、岩科診療所について、①、議会の議決を受け地域医療振興協会と相談し、岩科診療所の開院を1年延期する旨を議会に説明したが、8月になって再び地域医療振興協会と話し合い、議会に相談もなく、さらに一年延期することになったのはなぜか、お答えください。

②、町長は「先方の意向は尊重しないとイケない。」と発言しているが、地域医療振興

協会の意向は、どのような事なのか、お答えください。

③、協定書の進捗状況についてお答えください。

④、2次救急について、賀茂圏域で話し合うことになっていますが、現在どのような状況になっているのか、お答えください。

⑤、松崎・西伊豆地区に2次救急の医療機関がなくなると町民の命の危機である。岩科診療所の開設よりも、2次救急の医療機関の存続及び拡充を優先すべきと考えるが、町長の考えをお伺いします。

以上、壇上より質問させていただきました。

(町長 長嶋精一君 登壇)

○町長(長嶋精一君) 深澤議員からの質問にお答えします。大きな1つ、町長の政治姿勢、そのうちの1つ、町民の声を聞けたので、今後の行政運営にどう活かしていくのかということでございます。お答えします。

私は町長に就任する前から、町民満足度の高い町にしようと考えておりました。そのために、「農林水産観光業の一体推進による経済活性化」「災害に強い町づくり」「医療・福祉の充実」の3つの基本理念を掲げ、町政を進めてまいりました。町政を進めていく上で、町民の皆さまの声なき声を聞き、人の意見に対し謙虚に耳を傾けることは何よりも大切なことであり、現場に出て直接対話することは行政施策の成果につながっていくと考えております。コロナ禍で町内がどのような状況なのか、町民や事業者の声を聞く中で、観光事業者だけでなく、観光に関連する事業者や医療福祉関係者、大学生や高校生の子供を持つご家庭、一人親世帯など幅広い支援が必要であると思ひ、政策に活かしてまいりました。今後も、町が推進する事業等について、町民の声を丁寧聞きながら、行政運営に活かしてまいりたいと思ひます。

大きな1つ目のうちの2つ目、町長は名刺を令和元年度には、300枚を3回刷った。今年度は、千枚という大量の名刺を使っていると、この使い道は何かという質問でございます。お答えします。

名刺については、自己紹介や町をPRする上で、重要なツールであり、ビジネスにおいて必要不可欠であることは、議員も承知のことと思ひます。ご質問の名刺千枚が大量なのか、甚だ私には疑問であり、そもそも名刺の適正枚数などの基準はございません。名刺の使用については、お客さまへのご挨拶や要望活動、セールス活動など幅広く活用しており

ます。

次、大きな岩科診療所についてでございます。そのうちの1つ、議会の決議を受けて、地域医療振興協会に相談して、開院を1年に延期したと、そのあと、また2年に延期した。この経過について、議会に相談しなかった、何故かという質問でございます。回答します。

令和2年6月11日の「岩科診療所建設工事の延期を求める議会の決議」については、法的拘束力は持ちませんが、議員の皆様のご意見を尊重し、町と地域医療振興協会と協議し、6月に1年間の延期を決めました。この6月の時期には、緊急事態宣言も解除され、経済活動も再開されていたため、1年延期の判断となりましたが、8月になり、感染者数が増加し状況が変化しました。また、病院の経営状況を見ると、依然として受診控えにより外来患者の減少が続くなど、大変厳しい状況であると、地域医療振興協会からの相談もあったため、8月13日に私と協会の理事長が協議した結果、さらにもう1年延期した方がよいとの判断になりました。この経過については、8月24日の議会全員協議会においても説明させていただきました。さらに、11月18日の議会全員協議会でも、経過を説明させていただきました。決して、議会に相談することなく進めていたものではございません。

2つ目、岩科診療所の2つ目でございます。町長は、先方の意見を尊重しないといけな、と言いましたが、地域医療振興協会の意向は、どのようになっているのかという質問でございます。回答します。

新型コロナウイルス感染症が蔓延している中で、患者の受診控えなどにより病院の経営が大変厳しい状況であり、この様な状況の中で、診療所の新設については、いい準備ができないとの話がありました。町としては地域医療の充実を図るため、できるだけ早く診療所を開設したかったわけですが、指定管理者の開院準備もありますので、先方の意向を尊重して2年の延期を決めたものであります。

岩科診療所の3つ目であります。協定書の進捗状況はどうなっているのか、ということでもあります。

協定書については、議員の皆様が大変関心のあるところと思いますが、一番の課題になるのが指定管理料の部分だと思います。現在、地域医療振興協会に対して、収支計画についての見直しを依頼しているところでございますが、新型コロナウイルス感染症が、全国各地で第3波とも言われる患者数が増加している状況であり、さらに、今後初めての冬場

を迎えるにあたり、重症化しやすい基礎疾患を持っている方など、患者数がどのように変化していくかの想定が難しい状況にあります。この様な状況の中で、国や県も新型コロナウイルス感染症に対する予防対策などを講じていますが、海外においてもワクチンの開発が進められており、国からは、来年にはワクチン接種ができるよう準備を進めるようにと指示も来ております。ワクチンが接種できることによって、状況は一変しますので、現在は、状況を見定めているところにあります。なるべく早く協議できるよう進めてまいります。

岩科診療所の4つ目です。2次救急について、賀茂圏域で話あっているが、それは、どういう内容か、という質問でございます。

賀茂地域における2次救急、小児救急については、下田メディカルセンター、伊豆今井浜病院、伊豆東部病院、西伊豆健育会病院の4つの病院で運営体制が整備されており、その運営については、例年、9月には前年度の決算、12月には翌年度の予算、事業計画等について賀茂救急医療協議会で審議されますが、9月は新型コロナウイルス感染症の関係で書面決議となり、12月は下旬に開催予定のため、今年度はまだ開催されておられません。また、令和元年度から2次救急医療機関に対し、専門医療機関と患者の画像検査データなどをリアルタイムで共有するネットワークの整備を行い、地域で救急患者が出た際の指導・助言を受けて応急措置を行い、速やかに3次救急医療につなげる地域医療ネットワークのシステムも稼働し始めました。県全体の救急医療体制については、静岡県保健医療計画により定められており、現在、第8次の2018年から2023年の6年間の計画で、本年度は中間見直しの予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の関係で、来年度以降に延期されました。今後、この計画については、賀茂地域医療協議会にて検討されていきます。

岩科診療所の5つ目でございます。岩科診療所の開設よりも、2次救急医療病院である、医療機関の存在を拡大した方が良くないか、要するに西伊豆病院を拡大した方が良くないかという質問でございます。

2次救急の医療機関については、手術治療も含めた入院治療を提供できる設備が整っていることや、救急患者のための専用病床が整備されていることなどの条件があり、24時間体制で救急患者の受入ができるようになっております。その分、医師や看護師の確保をするための負担が大きく、賀茂地域では輪番制によって対応しております。岩科診療所については、体調が悪いと感じたときに相談できる診療所として、入院の必要がなく、帰宅可

能な軽症患者に対して治療を行う、かかりつけ医的な役割として、また、大規模災害時には交通手段等が遮断された場合の医療施設として、役割を担ってもらうよう整備を進めていきたいと考えております。西伊豆地区にある二次救急医療機関は、西伊豆健育会病院となりますが、その役割の重要性は十分認識しており、今回の新型コロナウイルス感染症の影響による経営状況の悪化については、西伊豆町と協議し支援を行いました。今後も、当地域において重要な医療機関であるとの認識は変わりません。できる限りの支援は行っていきたいと考えております。

以上で、深澤議員の質問にお答えしました。

○5番（深澤 守君） 一問一答でお願いします。

○議長（藤井 要君） 許可します。

○5番（深澤 守君） まず、最初に・・・、通告では最初に町長の姿勢ということで、質問言っておりますが、最初に2の岩科診療所の方から、質問させていただきたいと思えます。まず、最初にですね、これは、ちゃんと公文書開示をしてですね、正式に役場の方からいただいた書類ですので、確認していただきたいと思えます。もらった内容は、6月16日に町長、課長が地域医療振興協会の方に行って打ち合わせた、打ち合わせ書の記録、もう1点は、8月13日に町長、課長が地域医療振興協会の方と打ち合わせたものの記録ですので、これは町長が発言した記録として残っているものですので、ご確認をいただきたいと思えます。

まずですね、打合せ記録の中に、町長は最初、地域医療振興協会の方にですね、延期について議会で岩科診療所の建設について、コロナが収束するまで延期することのないように、決議がされたが法的問題はないという話とですね・・・。これ議員の方が決議したからといって、遅らせることはしたくないという発言をしている。これ、間違いのない話でしょうか、町長・・・。

○町長（長嶋精一君） 私はあくまでも、3月・・・、令和3年の4月スタートという形でやって行きたいと基本的には、思っておりました。だがしかし、議員の方から、決議書が出て、それを尊重しようという事で、言ったわけですけれども、そう言ったのは私の本音を・・・、一番最初の気持ち、令和3年の4月にスタートしたい。それによって、町のその・・・、業者に対する・・・、観光業者、飲食業者に対するそういう支援ができなくなるわけではない、松崎町は、しっかりとした財務体質を持っています。従って、我々の方

は・・・、受ける方は・・・、OKですよと、いう姿勢を示したんです。ただし、それは、冒頭の言葉であって、しかしながら、あくまでも議員の決議書があったから、あるいは・・・、医者控えということが始まっておりますから、どうぞございますかと・・・、1年間延ばしましょうかということになったわけでございます。

○5番（深澤 守君） その後、6月30日の全員協議会で、町長、議員にしっかり話すということで、今答弁いただいたんですけど、その中でですね、説明ではですね、地域医療振興協会の方にどのような説明をしたかというところ・・・、議会がですね、議決に基づいて延期してくれという話があったもので、地域医療振興協会の方に申し入れたという話をしています。そのあと、町長はですね、令和5年にしたらどうかという話の中で、町長は遅いと・・・、色々話し合いをした中で、最後の結論がですね、遅いと、令和4年に開院したいという話をなさっているんですけど、これ地域医療振興協会の話している事と、我々に話している説明っていうのは、これ食い違いがあるんですけど、どのようなことでしょうか、お答え下さい。

○健康福祉課長（糸川成人君） その時の経過を説明いたしますと、理事長の方は、令和3年の8月ぐらいに判断をしたいというような話ですので、大きな工事にとということになりますと、予算の関係を見てみますと、できれば当初予算で組みたいと、というような話の中でですね、令和3年8月ということになると、その前か後かという判断の中でですね、令和4年の4月・・・、1年遅れにするのか、令和5年の4月・・・、2年遅れにするのかというような判断の中で、町長は令和4年の4月ということで、1年遅らせるというような事を言ったところでございます。

○5番（深澤 守君） それではですね、次に移りたいと思うんですが、町長・・・、診療所の関係なんですが、診療所の意向なんですが・・・、私は、向こうは、ワクチン・・・、基本的には収支の目標は見込めないんで、白紙だつていう話をしているのではないかと思っているんですが、そのような状況というのは、ございませんでしょうか。そのような意向は・・・、っていう事ではないんでしょうか。

○町長（長嶋精一君） 白紙にするなんて意向は、全くございません。理事長は岩科という地区は非常に良い所だと、言っております。だがしかし、懸念になるのは、松崎町が本当に我々を待っているのかと、望んでいるのかと、だいぶ議会と色々あるみたいだけれども、本当に望んでいるのかと、ウェルカムなのかということと・・・、その場で言ったんで

はなくて、そういうことは、私に言ったことがあります。ですからですね、この町は、間違いなく医療過疎になるわけです。1年先、2年先じゃないにしろですね、それは間違いございません。従って、今ここでやっていかなければ・・・、私は、将来に禍根を残すと、町長としては、これは実施していきたいと、理事長の方も、良いところだと、ただし、ウェルカムな姿勢でお願いしたいということはおっしゃってありました。

○5番（深澤 守君） それでは、協定書の進捗状況なんですけど、今、協定書については、検討しているということなんですけど、今、一番問題になるのはですね、協定書の7,300万の債務負担行為が一番の協定書を結ぶためのネックになると思うんですけど、町長は、議会で7,300万円以上出さないと言明していますね・・・、この7,300万以上出さないということに間違いはないでしょうか。町長お答え下さい。これ、町長・・・。

（○町長（長嶋精一君） 「先に、先にっ・・・。」）

○健康福祉課長（糸川成人君） 7,300万というところでですね、当初の計画は出ているわけですけども、こちらの方の計画については、コロナが発生する前の収支計画でございます。現在、コロナがこのような状況の中でですね、今後、ワクチン等の接種も外国で始まっているということで、そういう状況などを見定めながらですね、また、収支計画の方をもう一度、検討していただくということで、今の現在の段階はこういう状況になっております・・・。

○議長（藤井 要君） 町長、先に答弁させましたけれども・・・、町長の方からは答弁は・・・。

○町長（長嶋精一君） 今、健康福祉課長が言ったとおりでございます。世の中は経済でもなんでも変化するんですよ。その変化に応じて、やはり、柔軟にやっていかなければならない、と私は思います。だから、あくまでも、7,300万というのを固執するという考え方もあるけれども、やはり、今現状の状態をよく見極めて来て下さる地域医療振興協会の収支状況をよく検討を・・・、まず、作成していただいて、それについて検討をしていくと、それによって、また、判断をしていって、また、議会にそれを上程するという形になりますけれども、基本的には、あくまでも、7,300万ということは、お願いをしたいなあというふうには思っております。

○5番（深澤 守君） 今の町長及び健康福祉課長の発言ですと、7,300万円は見直すという回答だったと思われまして。しかしですね、町長は我々が指定管理をとる時のですね、

7,300万円は堅持する、それ以上支払わない。協定書でしっかり明言するから問題ない。ですから、やらしてくれという事を常々言っております。議会でも言っておりますし、全員協議会でも言っております。この基本的な7,300万円を変更するのであれば、もう一度計画その他をしっかりと見直す必要があると思っておりますが、私の考えは間違いでしょうか。町長、お答えを・・・、先に、健康福祉課長じゃなくて、これ、きちっとした方針ですので・・・。町長の方お答え下さい。

(○町長(長嶋精一君) 「先に健康福祉課長****・・・。」)

○5番(深澤 守君) いえ、これは町長の方針ですので、細かい話ではなくて町長の方針をお伺い・・・。

(「○町長(長嶋精一君) いや、細かい話も大事ですよ。」)

○5番(深澤 守君) いや、だから先に方針をお伺いします。

○町長(長嶋精一君) 最初から、当初から白紙に戻してやり直そうという考えはございません。この7,300万円に限るならば、これは、先方から、じっくりと聞いてそれと我々もそれを咀嚼し、分析し、そして、議会の方に、ご了解を得るという手続きで私は良かろうかなと思っております。白紙に戻すという気持ちはございません。

○健康福祉課長(糸川成人君) 協会との話をしていく中でですね、やはり、病院の運営についてはですね、患者さんとの信頼関係が、大切だということでございます。ただ、その信頼関係を築くには、多少時間がかかると、最初から上手く信頼関係は・・・、時間をかけて築いていくものだというようなお話があります。そうした中で、経営状況等見ていくということであればですね、例えば、土日の診療であったり夜間の診療であったり、または、病院の方に来られない方については、訪問診療であったりと、そういうような工夫をしながらですね、経営を見直していくというようなお話もいただいております。やはり、収支を確保していくためには、地域の皆様との応援とか信頼関係が重要だというようなお話がありますので、こうした中でですね、議員の皆さまにもいろいろな説明をさせていただきながらですね、理解を得られるように説明をして進めていきたいなと思っております。

○町長(長嶋精一君) 診療所を例えば事業所として考えた場合、人口の少ない所に、商売をやりに来るといふ人はいないんですね。まして、商売じゃなくて、これは、診療所なんです。町民の命・・・、安心安全を守るために、我々は招待しているわけですね。奨励して

いるわけです。そこを、勘違いしてですね、もらっては困るなあと思います。深澤議員は、平成30年に我々は、決して反対しているわけではないと、診療所を。むしろ早くやってもらいたいという発言が・・・、これ、議事録に載ってますけれどね、これを言っているわけです。そして、「私たちは、決して診療所を作るなどは・・・、話ではなくて、より良い診療所を作るために、議論をしているのであって、絶対的にやるなということを行っているのではないと・・・」この発言は重くてですね、それが今に、最近、それ以降ですね、白紙にしたらどうかとかなんとか・・・、っていう問題非常に出てきて、議員というものは、言ったこと・・・。

(○5番(深澤 守君) 「議長、その発言はおかしいです。」)

○町長(長嶋精一君) すぐに終わります。言ったこととやることが、一致しないと、言行一致でないと、私は、まずいと思います。

○5番(深澤 守君) すいません、今の発言と先日の鈴木議員とか田中議員に対する、議会に対する発言っていうのは、ものすごくおかしい発言で、議員に対して、凄く侮辱的な発言ですので、訂正を求めたいのですがいかがでしょうか。

○議長(藤井 要君) 暫時休憩、しま・・・。

○5番(深澤 守君) いいです。****、な発言だと思いますので、町長、もしあれでしたらご注意願いたいんですけども。今の発言の回答というのは**、思いますけど。それは、町長が言うのはコロナ前の発言ですよ、今、医療、世界経済、これだけ変化している、医療体制も変わる、生活習慣も変わる、ましてや今、医療機関、大変赤字で苦しんでいる。西伊豆病院も大変だ、石田病院、中江せんせ・・・、松崎の医院も大変ですよ。その中で我々は、今の体制をどう整えていくかというのを考えた場合に、果たして、岩科診療所を作る事によって、この2院が辞めてしまう事も、考えていかなければいけないと思います。ですから、町長はよく、私が、岩科に診療所を作れ、作れと言っているという発言を議会その他でもしますけども、状況が変わってしっかりと私も考えました。その中で、発言をしています。ですから、白紙撤回とか、考え直してくれというのは、私が前、言った言葉と今言っていることが、決して・・・、言葉を欠いているということにはならないと思います。先ほどの・・・、続けてよろしいですか。先ほどの収支の問題なんですけど、8月の町長との打ち合わせの中で、理事長、地域医療振興協会の理事長ですね、何を言っているのかというと、町長、事業所だから、問題はないという・・・。事業所じゃなくて、

地域医療だから問題ないという話をしておりますが、理事長はですね、千人程度の地域で・・・、患者の人数は、伸びないということを言っております。ましてや、人口統計見ると、令和40年位には松崎の人口は3千人を切ってしまうと。そうすると、この、人口程度のものがどんどん下がるということは、収益が落ちていく・・・。それと、ビジネスで厳しい、政策があれば別である。要は松崎町に、診療所建設の事以外に、もう、ちょっと、なんとかしてくれということがあります。それと、地域の人々が、来るようにしなければ、患者は伸びない、来るとは限らない・・・。患者と信頼関係を作るには、時間がかかる。通院している人は、病院を変える人は少ないという事を言っております。ということは、岩科診療所はちょっと難しいんじゃないかという発言をしている中でですね、じゃあ一体、赤字幅がどれだけ増えるのかっていうのを、もし、健康福祉課長、予測があるんでしたら、大体どれくらいまでになるのか、予測の値というのを、教えていただければと思います。

○健康福祉課長（糸川成人君） 予測の値というのはですね、申し訳ございません、まだ、今お願いをしていて、コロナの状況を見定めて作るということで、今の状況で赤字の予測はできていないというところです。ただ、今の話の流れの中でですね、確かに、診療所の方は難しいというような話をしてるんですけども、そうした中で、先ほど私が言わせていただいた、土日の診療であるとか、訪問診療であるとか、そういうのを入れて、地域の方に密着した診療所ということでやっていきたいというようなお話をいただいています。やはり、今後、医療と介護と高齢者が増えるということで、介護の面から見てもですね、訪問診療というのはこれから先、必要になってくるというところもありますので、そうした中でのかかりつけ医というような役割というのは、大変重要なのではないかなということで思っています。

○町長（長嶋精一君） 今後の予測というのはね、有名な経済学者でも非常に難しいと思います。これほど、難しい事はないんです。だから今、課長が、申し上げたように、だからこそ、いろんな形で努力をする。土曜日はやろうじゃないかとか、あるいは訪問診療をしようじゃないかと高齢化の方が多いですから、そういう事を努力を積み重ねていってですね、信頼を得て、それで患者数を増やしていくと・・・。それはもう、努力の世界ですね。これは、そういうことでございます。そして、今西伊豆町には、西伊豆健育会病院、それから安良里診療所、田子診療所、これ地域医療振興協会の関係です。3つございます。西

伊豆町は、それで採算が・・・、そんなに悪くないというような事を聞いております。それで、成り立っているわけですね。じゃあ、我が町はどうかというと、人口はそれほど、変わりがない町であるにもかかわらず、今2つです。それを1つ増やしても、私は医療が過大になるというふうにはまったく考えてはおりません。しかも、人間というのは、いつまでも同じ状況ではありません。公平なのは、必ず歳をとるんですね。高齢化すると、前の松崎町の医院さんも、高齢でもって辞めました。それが一番怖いんですね。だから、今のうちから、手当しておこうということでございます。そして、静岡新聞の今年の2月には、47都道府県の中で、静岡県は、9番目に低い・・・、お医者さんが少ない県であるということですね。これが、書いてありました。そして、賀茂の医師会の会長、宇久須の池田会長ですけれども、このまま行くと大変な状況になるというふうに明言しております。私どもの方は、町長としてね、やはりそれを、見越して、やはり今から手当をする、これが大事なのではないでしょうかと思っているわけでありませう。

○5番（深澤 守君） ちょっと、先ほど、静岡新聞の話はしていると思いますが、僕、静岡新聞の方にも確認をとりましたが、その記事については、診療所等は、これからどんどん少なくなっていく可能性はあると思いますが、医師不足については、要は専門医が少ないという見解で、町長が今言った見解とは、ちょっと違う見解ですので改めて認識していただきたいと思います。それと、今町長、かかりつけ医、その他、減ると困るという話をしましたが、この現状の健康保険及び高齢医療費の資料を持っていますけれども、だいぶ減っております。経営的にも厳しい。6月にワクチンができると言いますが、よくわからない。その中で、今、最悪の今の状態で、岩科診療所を作ったら、多分、松崎の両医院、やめる可能性も出てくると思います。ですから、本当にそこまで考えて、計画の見直しというのは必要ではないかと思っております。

それと、もう1点、地域医療振興協会はですね、派遣される医師の住環境や子供の教育、郵便局、コンビニ併設、往診車の用意等、周辺の整備を依頼しております。これについて、大体、どれくらいの予算がかかるのか、お答え願えますか。

○健康福祉課長（糸川成人君） すみません、後の方ですね、コンビニとか郵便局の併設とか、というようなお話は、町長は特にこれをやるというようなお話はしていないかと思っております。そのかわり、買い物支援タクシーを充実させて、そういう移動の支援をしていくというような回答をしているのかなと思っております。よろしいですかね。

○5番（深澤 守君） では、その要望はきているけど、まだ、検討には入っていないという
ことよろしいでしょうか。してほしいという、みたいな要望をこれ、発言しています
よね。打ち合わせ書の中に・・・。

○町長（長嶋精一君） それは、要望ではないです。

○議長（藤井 要君） 健康福祉課長よろしいですか。

○健康福祉課長（糸川成人君） はい。

○議長（藤井 要君） 深澤君、続けて下さい。

○5番（深澤 守君） では、2次救急についてお伺いいたします。今、西伊豆病院の方
が、やはり、大変ということで、救急について話題になって、松崎町も西伊豆とともに、
お金を出したわけですけど、今、賀茂圏域の中で2次救急について、今後どのような形を
とっていくかということの話し合いはしていないということで、よろしいでしょうか。

○健康福祉課長（糸川成人君） その話し合う機会の方が、2次救急の・・・、賀茂地域の医
療協議会であったり、課長レベルで言いますと、賀茂地域の2次救急・・・、賀茂救急医療
協議会、そういう場で協議されるわけですけども、今回はコロナ禍の関係で皆さん集まっ
て会議をするというような機会がまだ設けられていないということです。

○5番（深澤 守君） 5分延長お願いします。

○議長（藤井 要君） 許可します。

○5番（深澤 守君） 今年、西伊豆病院さんが、凄く赤字で大変で、救急をどうしようか
っていう議論にもなってきたと思います。ましてや松崎町の場合はですね、健育会さ
んの方がなくなるとこれ、今まで5・6分で行っていたのが下田、若しくは、そのまま順
天堂に行かなければいなくなる事態が起きるということはですね、凄く重要な問題だ
と思います。これ、本当に、自分がいつ倒れたっ・・・、わからないわけですね。倒れた
ときには、これ、救急がしっかりしていないと、本当に命の危機ですよ。それを踏まえて
町長は安心安全なまちづくりっていうことを常々おっしゃっているのであれば、町長が、
イニシアチブをとって、賀茂圏域、若しくは西伊豆・松崎町の救急をどうするか。これ、
県とか国とかいうところも入って、やって行かなければならない、大変、時間のかかる、
話し合いになると思いますので、早急にやっていかなければいけない事だと思います。
それは、町長、他がやらないからではなく、町長が率先して、他の地域に、賀茂圏域の首長
さんと話し合って進めて行くべき話だと思いますが、その辺について、どのようなお考え

をお持ちでしょうか。

○町長（長嶋精一君） 私は、2次救急の大切さ、西伊豆健育会病院の重要さという事を、決して否定しているわけではないんですね。24時間救急体制というのは、非常に大切です。だから、それは存続してもらわないと、こちらの方も困ると言っているわけです。ただし、かかりつけ医としての岩科診療所も必要だと。だから、こっちは必要でない、こっちは必要だというふうな形でね、分けてしまうことがおかしいと。やはり我々は、公平で中立でなくては行けないと。町民が望むところをやらなければいけないということですね。そして、岩科診療所をなんで岩科の方にしたいのかということ、あくまでも一番最初は津波浸水区域外であるということ・・・もし、津波が来た場合は、相当大変なことになると思います、松崎町内・・・。誰が、被災した人を助けるのかということその・・・、かかりつけ医というのは、大切なんですね。そして、西伊豆病院も大切でございます。しかし、もし、岩科診療所とか、こっちの方が、岩科診療所を作らなくて、津波が来て、松崎町内がちょっと大変な状況になった時、あの外部の所、通れるでしょうか。西伊豆町の方に行けるでしょうか。そこら辺も、よく考えて、私は・・・、いただきたいなと思います。そして、イニシアチブをとって、今からどうこうしようということは考えておりませんが、とにかく、西伊豆健育会病院は、大切であるということは大いに認識をしております。

○5番（深澤 守君） 町長、今の発言ですと、岩科診療所は要は、地震、災害が起きたときに、地震が起きた時の、診療所という・・・、医療機関という話を・・・、受け取れるお話をしておりますが、本来、機能を果たせないと思います。その機能は松高でやる災害時の医療機関としての役割を果たしますので、町長の今の発言は、認識が違うと思います。ましてや、先ほどですね、2次救急の話をされましたけど、町長の考え方は、岩科診療所及び2次救急を並列的にやっても大丈夫という認識でよろしいでしょうか。

（○町長（長嶋精一君） 「答える・・・。」）

（○5番（深澤 守君） 「はい。」）

○町長（長嶋精一君） その通りでございます。そして、松崎高校で前にですね、避難訓練みたいのをやったんですよ。中江先生に来ていただいて。それから、県の職員も来て、町の職員も来て、その手当をするという訓練をですね。その後、中江先生に聞きました。

（○5番（深澤 守君） 「それは、関係ないと・・・。」）

- 町長（長嶋精一君）　すぐ終わるから・・・。
- 議長（藤井　要君）　じゃあ・・・。
- 町長（長嶋精一君）　先生、1人でもって足りませんか。とても、いざというときには足りません。やはり、診療所の先生は必要ですと、はっきり、言いました。
- 5番（深澤　守君）　そういう話ではなくて、自衛隊等、国が入りますので、それは、基本的にはならない話であります、はい。私はですね、今、町長、並列という話をしましたけど、これ、松崎の人口構成考えるとこれから高齢者が凄く増えてくると。医療、その他が、介護等が増えていくときに、やはり病院を作るよりも私は健康管理その他をやってく方が、これからの医療体制、松崎の医療体制その他を維持するには必要じゃないかというふうに思っております。ですから、今、それに、本当に、今岩科診療所を作ってしまうとこの経営状況の中で、他の2院がやめてしまう可能性が多いんじゃないかと思いますが、そういう認識は、ないということではよろしいでしょうか。町長。
- 町長（長嶋精一君）　そういう認識がないというよりも、そういう事はお互いの努力次第ではないのではないかと、お互いが、三者が努力し合ってサービスを良くして、それで、やっけて行くというふうに私は考えております。
- 5番（深澤　守君）　先ほど、町長ですね、ワクチンの話されましたけど、これ、イギリスの方はワクチン、許可、どんどん出して、ワクチンを出しておりますけど、日本だと6月くらい、それで収束して、だいたい、来年度いっぱいくらいには、かかるんじゃないかと思えます。そうすると、来年度だと、経営状況はそんなに良くない、下手をすると、また延期という可能性はあるんですが、町長、あちらこちら歩いていて、令和5年開院ということで述べております。その根拠というのはありますか。
- 町長（長嶋精一君）　先ほどから言っておりますように、あちこち行って述べているというか、令和5年の4月にスタートいたしますからと、変更になりましたというふうな事を、やはり、町民の皆様にご覧に知っていただきたいと、いうことでお知らせしているに過ぎません。
- 5番（深澤　守君）　私はですね、白紙までということを行いましたけど、やはり、今の状況、コロナの状況、それから、町民の皆さんの人口構成、その他を考えて、介護医療を含めて、2次救急も含めて、もう一度松崎・西伊豆地区の体制を見直しながら、岩科の計画を練り直すということが、必要だと感じておりますが。やはり、今の状態で、岩科診療

所を令和5年に開院するということと、計画は見直さないということによろしいでしょうか。

○町長（長嶋精一君） ずいぶん長い、一点に絞られた、アレでございます。他にも質問がありますから、どうぞしてもらいたいんだけども、今のところはその考えは、かわりございません。

○5番（深澤 守君） それでは、時間がないのでまとめさせていただきます。

私は、これからの松崎町の人口構成とか高齢化率を考えますと、医療については、この状態でもつのかなという感想を、財政的に持っております。日本経済新聞、町長、よく読まれているから、状態はご存じかと思いますが、高齢者の医療については、1割から2割、国は財政的にもたないということ認識して動いております。松崎町もこのままでいくと、果たしてもつのか。その中でやはり松崎町民、健康で健やかに生活していただくには、診療所、2次救急、それから健康福祉、お達者度を上げていくような施策というものが、必要になってくると思います。それを含めて岩科診療所の計画等を考えて行くべきではないかと思えます。是非、その点を注意しながら岩科診療所の計画を進めていっていただきたいと思えます。

以上、質問を終わらせていただきます。

（○町長（長嶋精一君） 「議長、議長。」）

○議長（藤井 要君） 時間が来ましたので、これで深澤君の一般質問を終わります。

（○町長（長嶋精一君） 「議長、答えたんだけども・・・。いい議長・・・。」）

○議長（藤井 要君） これにて、深澤君の一般質問を終わります。

暫時休憩いたします。

（○町長（長嶋精一君） 「深澤議員から町長の名刺使いすぎじゃないかという話がありました。」）

○議長（藤井 要君） 町長、ここは議場ですので、違うところでやった方がよろしいかと思えます。終わりましたので。

（午前9時56分）
